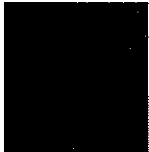


原 発 本 第 139 号
平 成 29 年 8 月 31 日

原子力規制委員会 殿

福岡市中央区渡辺通二丁目 1 番 82 号
九州電力株式会社
代表取締役 瓜 生 道
社 長



工事計画認可申請書の一部補正について

平成 25 年 7 月 12 日付け発本原第 96 号をもって申請しました工事計
画認可申請書について、別紙のとおり一部補正します。

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称、種類、出力、回転速度、燃料の種類及び使用量、個数並びに取付箇所並びに過給機の種類、出口の圧力、回転速度、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後				
名 称			ディーゼル発電機 内燃機関 (注1)		ディーゼル発電機 内燃機関 (重大事故等時のみ3,4号機共用)				
機 関 箇 所	種 類	—	ディーゼル機関		変更なし				
	出 力	kW/個	7,100 (7,355 (注2) (注3))						
	回 転 速 度 (注4)	min ⁻¹ (注5)	450						
	燃 料	種 類	—	A重油 (注6)					
		使 用 量	g/h/個	■■■■					
	個 数	—	2						
	取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	Aディーゼル発電機内燃機関 Aディーゼル発電機 (注7)			Bディーゼル発電機内燃機関 Bディーゼル発電機 (注7)		
		設 置 床	—	(注1) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m			(注1) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m		
		溢水防護上の区画番号	—	—			4-3-M	4-3-L	
		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—			EL.4.01m 以上	EL.4.01m 以上	
過 給 機	種 類	—	遠心送風機		変更なし				
	出 口 の 圧 力	kPa	177 (注3)						
	回 転 速 度 (注4)	min ⁻¹ (注5)	17,600						
	個 数	—	4 (機関1台当たり2) (注8)						
	取 付 箇 所	—	機関と同じ						

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には内燃機関の出力として「10,000PS/個」と記載。

(注3) SI単位に換算したものである。

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「rpm」と記載。
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「JIS 1種2号重油」と記載。
- (注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (機関1台当り2)」と記載。

以下の設備は、既存の3号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

- ・常設

- ディーゼル発電機内燃機関（3号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変 更 前		変 更 後	
名 称		ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ ^(注1)		ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ (重大事故等時のみ 3,4 号機共用)	
種 類	—	うず巻形 ^(注2)		変更なし	
容 量	m ³ /h/個	■■■■以上 (195 ^(注3))			
個 数	—	2 (機関 1 台当たり 1) ^(注4)			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A シリンダ冷却水ポンプ ^(注2) A シリンダ冷却水ライン	B シリンダ冷却水ポンプ ^(注2) B シリンダ冷却水ライン		
	設 置 床	原子炉周辺建屋 EL.11.3m ^(注2)	原子炉周辺建屋 EL.11.3m ^(注2)		
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		4-3-M	4-3-L
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL.4.01m 以上	EL.4.01m 以上

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (機関1台当り1)」と記載。

以下の設備は、既存の3号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

・常設

ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ（3号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）

・常設

			変更前		変更後	
名称			ディーゼル発電機 ^(注1)		ディーゼル発電機 (重大事故等時のみ3,4号機共用)	
種類	—		横置・突極回転界磁形・ 開放防滴自己通風・三相同期発電機		変更なし	
容量	kVA/個 ^(注2)		8,875			
主要寸法	全長	mm	3,480 ^(注3) ^(注4)			
	全幅	mm	4,000 ^(注3) ^(注4)			
	全高	mm	3,075 ^(注3) ^(注4)			
力率	%	80 (遅れ)				
電圧	V	6,900				
相	—	3				
周波数	Hz	60				
回転速度	min ⁻¹ ^(注5)	450				
結線法	—	星形				
冷却方法	—	空冷				
個数	—	2				
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	Aディーゼル発電機 —	Bディーゼル発電機 —		
	設置床	—	^(注3) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m	^(注3) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m		
筒所	溢水防護上の 区画番号	—	—		EL.4.01m 以上	EL.4.01m 以上
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—			

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「kVA」と記載。

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注4) 公称値

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「rpm」と記載。

以下の設備は、既存の3号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

- ・常設

- ディーゼル発電機（3号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）